

# みつくら

令和 4年 8月15日 第368号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 親子で環境学習

コロナ禍のために中止していた葛丸の農村環境を守る会主催の親子環境学習会は、7月17日に68名が参加して大瀬川構造改善センターと、柳原美智子さん宅脇の北寺上堰で開かれた。参加者の内訳は大瀬川子供育成会の親子が36名、稲豊の親子が13名、講師の親子3名、それに葛丸の農村環境を守る会が16名であった。

学習会は最初に講師の岩手県環境アドバイザーである佐井守さん(西和賀町沢内)から環境講話を頂いた。佐井さんは、「私達の住みよい環境を守るには、そこに生息している昆虫や虫などを守ること。また、環境が破壊されると昆虫や虫も住めなくなる」と優しく話された。会場には川魚や昆虫、虫などの標本6箱が並べられ、それらを観察する子供達からは歓声が上がっていた。

続いて行われたヤマメの放流は、当初木ノ宮橋付近の葛丸川を予定し、菅原弘雄さんに堰堤の草刈の協力を頂いていたが、大雨の翌日とあって危険が伴うことから、急遽北寺上堰に場所を変更し、子供達全員でヤマメの成魚(25cm位)250匹を小さなバケツに数匹ずつ分け静かに放流した。

学習会の最後は、従来のカレー作りに代え、食育として在来魚のヤマメの串焼き2匹ずつを児童各自持ち帰った。

## ソフトボール大会で大瀬川チームが3位

去る7月31日、ふれあい運動公園で開かれた石鳥谷町体育協会主催第28回石鳥谷ソフトボール大会は、チームに必ず女性1名以上の参加、出場選手の合計年齢が350歳以上、盗塁なし等のルールのもと、5チームが参加して行なわれ、大瀬川チームは1勝1引き分けで3位となった。

参加者(見学者含む)

菅原幸福(監督)、熊谷俊哉、板垣雄一、板垣淑子、板垣春介、板垣圭介、板垣伸吾、熊谷裕美子、佐藤学、菅原茂、川村直人  
 暑い中、皆さんご苦労様でした。

## 「石鳥谷の匠」展に熊谷岳朗さん

大瀬川に昭和38年まで住んでいた東内屋敷(とねしき)家の熊谷岳朗(本名熊谷初郎)さんは、現在岩手県川柳連盟の理事長を担っているが、石鳥谷図書館では8月3日から「実はずごい!!石鳥谷の匠展」で岳朗さんを紹介している。

熊谷岳朗さんは昭和22年に現在の熊谷利昭さん宅付近に東内屋敷家の長男として生まれ(父の忠次郎さんは熊谷政男さんの叔父)、現在は紫波町北日詰字大日堂に住んでいる。

企画展によると、熊谷岳朗さんは国鉄(現JR東日本)の車掌に勤務中に、上司の熊谷岳豊(本名熊谷誠)さんから川柳に誘われて入ったのが始まりだという。以降、熊谷岳朗さんが川柳界で活躍した様子や、野村胡堂と川柳、日本の川柳の生い立ちなどがこの「実はずごい!!石鳥谷の匠展」で詳しく紹介されている。企画展は10月30日まで開かれているので、郷土の大瀬川を知るためにも足を運んでみられてはいかがでしょうか。

せっかくなので熊谷岳朗さんの経歴を紹介する。

本名は熊谷初郎さん。昭和22年東内屋敷(とねしき)家生まれ。父は熊谷忠次郎(棟梁)さんと高畑家(通称橋見竈家)の生まれ。柳号は熊谷岳朗(岳郎ではなく岳朗)。昭和34年度の大瀬川小学校卒業生で同級生に菅原黎治さん、板垣幸夫さん、畠山幸夫さん、板垣眞喜子さん、菅原照子さん達がいる。岳朗さんの妻も国鉄の車掌。昭和38年に大瀬川から紫波町北日詰字大日堂18-2に移転。国鉄職員として蒸気機関車の車掌に勤務し、定年は東北新幹線の車掌であった。同じく国鉄に勤務していた、後の岩手県川柳連盟理事長藤沢岳豊(本名藤沢誠)がいた縁で昭和49年藤沢岳豊に川柳で師事。昭和58年いわて紫波川柳社を創設し主幹。昭和60年紫波町広報の「町の文芸」選者。同年毎日新聞「いわて文園」選者。昭和60年頃国鉄総裁表彰。昭和62年岩手県芸術祭賞受賞。平成2年岩手県川柳大会県知事賞受賞。平成11年いわて川柳社主幹。平成11年「川柳句集・風はうたう」発刊。平成14年第8回時美新子文学碑建立記念川柳会準賞受賞(青森県下北半島かわうち川柳社)。平成16年JR東日本文学年度賞受賞、平成16年岩手県川柳連盟大賞受賞。

平成22年現在紫波川柳会長。平成22年岩手県川柳連盟副理事長。平成24年「人間が触れると濁る白である」が岩手県芸術祭川柳の部最高賞受賞。平成25年NHK東北文化賞受賞。平成28年第19回全日本川柳詩歌大会平成柳多留賞受賞。令和3年現在岩手県川柳連盟理事長。令和3年NHK盛岡放送局感謝状受賞。令和4年現在いわて紫波川柳社主幹、全日本川柳協会常任理事、日本現代詩歌文学館振興会評議員、東北川柳連盟理事。NHKひるっこ岩手の「ひるっこ川柳」とNHK人気ラジオ番組「まじえ5時」にゲスト出演(令和3年3月終了)。

また、平成19年に大瀬川大瀬川活性化会議で「大瀬川ゆかり人講演会」に引き講演会を開催したほか、平成30年5月26日大興寺でも岳朗講演会を行なっている。

## 死亡事故で県内「農地・水」が緊急啓発

去る7月23日、金ケ崎町で農地・水団体の作業中に、2名の死亡事故が発生したため、花巻市の緊急安全通達を受け葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長、構成員378名)では、全構成員に緊急の作業安全啓発書を発送した。

新聞各紙によると、この事故は金ケ崎町西根にある吉田沢堤で、同地区の農地・水団体「水芭蕉の郷・長志田地区活動組織」の会員14名が、堤周辺の草刈作業中に起きた事故だった。堤には安全柵が巡らされていたが、その内側で草刈中に発生していて、作業中に誤って堤に転落し、深い泥と水草に足をとられたものとみられている。

市の文書では「県内外の活動組織において、草刈作業中の蜂刺され事故が立て続けに発生しています。先日は近隣町村において、ため池の草刈作業中に1名が転落落水し、それを助けようとした方も落水し、病院に搬送されましたが、2名とも死亡するという痛ましい事故が発生しました。活動組織の皆様におかれましては、作業時の事故や熱中症防止のために十分注意して活動していただいているところですが、改めて事故防止に向けた安全管理や熱中症対策を徹底していただきますようお願いいたします」という内容であった。そのため葛丸の農村環境を守る会でも、決して他人ごとではないことから、作業に当たる際は安全管理責任者はもちろんのこと、作業者ひとり一人が気を引き締めて取り組んでいただきたいと呼び掛けた。葛丸の農村環境を守る会では、今後も引き続き複数で作業を行う場合は、必ず安全管理責任者を当該作業員の中から選び、安全作業に取り組むが、再度作業員各自の安全確認をお願いしている。

尚、下大瀬川美土里の会(高橋義晃会長)も、8月15日付けで文書により会員に注意喚起を図ることにしている。

## 公葬地の駐車場周辺を清掃草刈り

大瀬川公葬地管理運営委員会(板垣弘清委員長)では、7月31日に役員13名が出て、公葬地駐車場の清掃と周辺の草刈りを行った。この作業は、お盆のお墓参りを控え毎年行われている。

大瀬川公葬地は県道13号線沿いにあるため交通量が多く、事故が起こりやすい場所でもある。お墓参りに訪れ、特に帰りの際は見通しが悪いため、左右を十分に確認し、交通安全に努め事故のないよう気をつけていただきたいと運営委員会では話していた。

## 体協で臨時代議員会が開催される

去る7月31日に大瀬川体育協会(熊谷俊哉会長)は、6月に開催を延期していた地区民運動会の9月開催について臨時代議員会を開いた。

代議員会は、開催日を9月4日、開閉会行事の簡素化や競技種目も5種目に減らして行うとし、コロナ第7波の感染状況を見て8月20日最終判断をすることを提案し決定した。

# みつくら

令和 4年 8月15日 第368号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 玉山さんの「やまなし」朗読などがNHKで放映

石鳥谷賢治の会（熊谷善志会長、会員58名）主催の第11回賢治やまなし祭は、8月7日に30名が参加して大瀬川構造改善センターで行われ、玉山太一さん（玉山美容院）の「やまなし」の朗読がNHKテレビで同日夕方に放映された。玉山太一さんは石鳥谷小学校六年生。玉山さんの朗読は、はっきりした発音で、蟹の兄弟になりきったように情感を込めたすばらしい発表であった。

この日の天気予報が終日曇りだったので現地で行えると期待し、祭の数日前には「やまなし園」の草刈を行うなど準備を進めていたが、当日未明から予報が雨に変わり、午前7時頃から降り出した雨のために、急遽会場を大瀬川構造改善センターに変更となった。昨年に引き続き、現地のやまなし園で開けなかったのは残念であった。

以下、賢治やまなし祭の様子をお知らせしたい。まず会場には、「第11回賢治やまなし祭」の吊し看板の下に、宮澤賢治の写真と、その横にはたわに実を付けたやまなしの大きな枝が飾られ、舞台に彩りを添えた。音響設備は板垣公さんが担当。さらに40脚ほど参加者用の椅子も準備された。

松村稔副会長（好地）の開会に続いて、熊谷会長は「第7波のコロナ禍で規模を縮小し、来賓も招くことは出来なかったが、このように多くの方々に参加され、感謝しています」と挨拶された。次に板垣寛さんから、石鳥谷町外から参加した竹内明美さん（東京賢治シュタイナー学校事務局）と、賢治の研究をしている瀬川勲さん（紫波新聞代表）、瀬川正子さん（紫波ビューガーデン代表）、塩野夕子さん（前地域おこし協力隊）が紹介された。今までは町外からの参加者を紹介しなかったが、こうして紹介されると、大瀬川の方々にも身近に感ずることができ良かった。

玉山太一さんの「やまなし」の朗読発表に続いて、共催者である竹内明美さんから「鳥山敏子さんの晩年」の講話を頂いた。鳥山敏子さんは東京賢治シュタイナー学校の創設者で、幼少の頃に宮澤賢治の影響を受け宮澤賢治やまなし園の植樹など何回も大瀬川に足を運ばれた方であった。

講話の後は「エコーくずまる」のみなさんによる「コーラス発表」があり、参加したのは代表の熊谷幸子さんを始め、板垣征子さん、菅原佳子さん、板垣禮子さん、菅原美津子さん、板垣福子さん、熊谷敏江さん、畠山庄子さん、菅原智子さんの9人で、「夏の思い出」と「ふるさと」を歌った。最後は参加者全員で「やまなし讃歌」を斉唱した。このコーラスの様子もテレビで放映され、地域にとどまらず県内に発信されたことは有り難いことであった。

最後の「所感」では、好地にお住まいの高橋久さんから「やまなし」の朗読が良かったこと、自分も教師として「やまなし」を教えたことや、「このように毎年続ける行事が各地で行われることこそ、賢治を後世に伝える役目を担っていると思う」と述べられ、能登谷芳孝副会長（八重畑）の閉会で盛会裡であった「賢治やまなし祭」も終了となった。

## 畦畔一斉草刈り終了

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長）では、6月1日から始まった畦畔一斉草刈りが7月31日で終了した。最終日は、板垣会長が点呼当番で「延べ2ヶ月間事故や怪我もなく無事終えて安心してます。また、支払いについては昨年と同じ頃を予定しています」と挨拶した。ちなみに、今年の出役カードは1118番で終了した。

## 例年になく涼しかった環境整備

8月6日早朝、大瀬川運動公園の環境整備作業が9区の40名の参加で行われた。

この日の朝は、東北地方や北陸地方で局地的な大雨の被害が報道されていたが、作業開始時は真夏とは思えないほど爽やかで長袖でもいかなりの涼しさの中で作業を行なった。

遊具周辺は子供達が遊ぶので、職員などで事前に草刈りを行っていたが、それでも公園内の草を集めて見れば、軽トラックで延べ12台ほどの搬送となった。

午前6時から7時過ぎまでの作業となったが、葛丸の農村環境を守る会がお茶を提供し終了した。

## お盆に合わせて戦没者慰霊碑を清掃

8月7日に大瀬川地区戦没者慰霊祭実行委員会（熊谷利博委員長）は5名で慰霊碑を清掃した。この清掃は恒例の作業となっており、今回は農業用の高速洗浄機を2台使用して行った。高速洗浄機が普及するまでは手作業で行なっており、氏名が彫られた所に白いコケが付いてなかなか取れず苦労したとのこと。この日は公葬地管理運営委員会が設定した墓地一斉清掃の日になっていたため、午前中の雨が上ってからは多くの方が墓掃除に来ており、慰霊碑清掃時にも4組の人達がいた。

## 7区に今年度もカーブミラーが設置

7月下旬に山祇神社の西側150メートルのT字路交差点に活

性化会議の予算でカーブミラーが設置された。これは昨年度に7区から要望があったもので、場所は市道大瀬川線の菅原達也さん（万吉家）の南側を下って、市道大瀬川久保線とのT字路交差点に設置された。

この交差点は西側への見通しが悪く、少し下り坂になっているので、特に冬季間は危険な交差点であった。

昨年度も7区の神平家の西側、高速道路の東側にも設置されている。

## 訃報

仲朴木田家の藤原由美さんが41歳の若さで6月28日に亡くなり残念でなりません。中学校の頃は体操部に入ったりと運動が大好きだった藤原さんでしたが、高校2年生の時、突然体調を崩し、あちらこちらの病院を歩きましたが、病名の判断が付きませんでした。岩手医大に入院中に、原因不明の国の指定難病「高安動脈炎」であることがわかり、何度も入院と手術を繰り返しながら闘病していました。日常生活では車の運転や過度な運動もできず、近年はお勤めも無理となっていました。今年も4月に再入院され治療中でしたが、5月にお父さんの邦雄さんが亡くなったことも知らないまま、1ヶ月後に旅立たれました。

短い間にご家族を続けて見送られたご遺族にお悔やみを申し上げると共に、若くして亡くなられた藤原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（病名についてはご家族の了承を得て記載しております。）

## 市道大瀬川36号線の舗装工事始まる

市道大瀬川36号線（板垣武美さん宅～板垣美智子さん宅）の舗装新設工事が8月1日から始まった。この工事の延長は411mで、たかしん興業（株・花巻市円万寺）が工事費約1360万円で施工していて、工期は11月7日まで。

## 事務室 お気軽にお入り下さい

大瀬川振興センターに置いてあるチラシを見て、6月5日に花巻市文化会館で花巻図書館主催の「読書スキルアップ講座・図書館の五法則と新しい花巻図書館」を受講した。80人程の参加者で、司会は辻村契子石鳥谷図書館長（林電家）であった。

花巻市のスキルアップ講座は平成28年から行われているが、従来の講座は、読書ボランティアや図書館司書、教員や指導員などを対象に、やや高度な内容であった。今回は吉植庄栄盛岡大学准教授から「読書の五法則」という基本についての講演で、演題とは似つかず、誰にでも解るような平易な内容であった。それは「読書は社会教育の根幹として法律化され、学校教育と同等に位置づけられている」とのこと。知性を求める読書もあるが、「普通の読書でも、知らず知らずに自らが変わっている」のだということを学び、有意義であった。